

BPW Newsletter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN



2011.8.1
Vol. 102

【特集】

2011年特定非営利活動法人
日本BPW連合会総会
山梨大会

CONTENTS

- 2011年日本BPW連合会山梨大会
 - ・開催クラブ会長の挨拶
 - ・理事長メッセージ
 - ・分科会報告「女性からはじまる復興への道」
 - ・「山梨宣言」
 - ・基調講演要旨
 - ・BPW パートナーシップ・エバリュエーション賞 発表
 - ・ヤングスピーチコンテスト全国大会審査結果
 - ・第2回総会議事
- 内閣府共催事業 12月シンポジウムのお知らせ
- 2011年度ブロック研究会の予定
- 2011年度JWLI(女性指導者育成事業)フェロー決定
- 2012年CSW(女性の地位委員会)インターン募集

日本BPW連合会ニュースレター
発行人：松原敏美

広報委員会編集

日本BPW連合会 事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木
2-21-11 婦選会館 303
TEL.03-5304-7874
FAX.03-5304-7876
e-mail: office@bpw-japan.jp
ホームページ:
<http://www.bpw-japan.jp>

山梨大会開催クラブ会長挨拶

特定非営利活動法人日本BPW連合会山梨クラブ会長 深沢公子

全国大会を山梨の地で開催し、東北地方のクラブを含め、全国から145名と多くの方にご参加いただき、感謝申し上げます。

今回の大会は、3月11日の東日本大震災を受けて開催も危ぶまれた中、分科会のテーマを急遽変更し、「女性からはじまる復興への道」と題して、「災害と女性の①就労、②リーダーシップ、③安全基盤」をテーマとして、参加者が3グループに分かれ、それぞれのテーマについて活発な討議がなされました。この討議には、被災地の会員も参加し、生活支援、日常支援、支援団体への対応などに奔走してきた体験や、現地の様々な状況についての発言もありました。タイムリーなテーマにマスコミ等からも関心が寄せられ、大会最終日に「山梨宣言」としてまとめることができましたのは、コーディネーターや助言者、会員の皆様の精力的な討議の中で大いに盛り上がり、BPWの底力を示し、今後に向けての大きな指針と行動への足がかりになったのではないかと確信しています。

基調講演は、変革への挑戦というメインテーマにふさわしい、ハイチ友の会代表として、また医師として活躍されている小澤幸子さんにお話いただくことができ、彼女のバイタリティーあふれる気取らないお話に皆様も満足していただけたのではないかと思います。

また、ヤングスピーチコンテストも全国から5人のすばらしいヤングが参加してくださり、図らずも山梨クラブ推薦の甲府動物園獣医興石多江さんが最優秀に輝いたことは、パートナーシップ・エバリュエーション賞を贈呈した開催市の甲府市長とともに喜び合いました。

交流・懇親会にはお忙しい中労働局長、雇用均等室長、山梨県知事代理として企画県民室長、男女参画課長、甲府市長はじめ市民生活部長以下3名の来賓の皆様にご出席いただき、山梨クラブ手作りのおもてなしに花を添えていただきましたこと深く感謝いたします。

28年ぶりの全国大会を引き受け、1年前よりクラブ一丸となって準備をすすめてまいりました。会場は甲府駅からの足の便を考慮して創業123年の老舗のホテル談露館にお願ひし、親身なご協力をいただきました。

さらに今回は山梨クラブ創立45周年の節目の記念でもあり、クラブで費用を負担しても記念に残るお土産をと、山梨特産の印伝で名入りの菜と、宝石の街甲府の特産として、新装なった甲府駅構内のシンボルの大きな水晶玉の小さな一つである水晶を根付けにしてお持ち帰りいただきました。

今大会を無事に開催できましたこと、準備に当たった山梨クラブ会員の心を合わせた大きな協力や、ご指導いただいた連合会役員の皆様、そして有意義な大会にしてくださった全ての参加者々に改めて深く感謝し、開催クラブ会長の挨拶といたします。



2011 年日本 BPW 連合会大会・総会 甲府市で開催 2011 年 6 月 4 日～5 日
災害時への対応についての宣言を採択

特定非営利活動法人日本BPW連合会山梨大会が、2011年6月4～5日、甲府市内の談露館で145名の参加を得て開催された。一日目は基調講演、ヤングスピーチコンテスト、その後場所を移し、「女性からはじまる復興への道」と題して3つのテーマに分かれての分科会が2時間余りにわたって行われ、活発な意見が交換された。18時からセレモニーが催され、引き続き交流会が行われた。二日目は、早朝7時30分より各常任委員会・ブロック委員

会合が行われ、9時から、法人化後第2回目の日本BPW連合会総会が開催された。総会は、松原敏美理事長のあいさつに始まり、高嶋洋子専務理事の全体進行ですべての議事を承認・可決で終え、名取はにわ副理事長の閉会の言葉で幕を閉じた。続いて、分科会での活発な討議における提言をもとにした「山梨宣言」が採択された。

理事長メッセージ

山梨大会開催にあたって

昨年の長崎大会の後、会員の皆様の御協力によりまして、多くの事業を展開することができました。

日本女性リーダー育成事業、略して JWLI のフォーラムが東京と福岡で開催され、NPO が社会を支える3本の柱の一つとして果たすべき役割と、それを可能にする環境を作るための知恵を共有しました。ポストンシモンズカレッジへのフェローの派遣も優秀な人材を得て、大きな成果をあげています。

また、昨年9月に東京で開かれました APEC 女性リーダーネットワーク会合において、当会は全体パネル I の企画運営を担当し、そこで女性の力を経済に活かすことの重要性を参加者に強く印象づけ、国内外からの参加者から、非常に高い評価を受けました。

さらに、APEC 関連事業として、11 月には仙台で当会と内閣府が共催したシンポジウム「地方発女性と経済」を開催しました。農業と食、自然と文化、教育、家族再生を女性の視点でとらえることで、ビジネスにつなげうることを、地元の皆様にお伝えすることが出来たと思っています。

CSW インターン派遣事業、各ブロック研究会のヤングスピーチコンテストも、より一層充実させ次世代育成事業として今後も継続していくべき事業です。

さて、平成 23 年 3 月 11 日に起きました東日本大震災ですが、今日この会場にも、被災地からあるいは被災地の近隣の県から御参加下さった方々が多数いらっしゃいます。震災から3ヵ月が経ち、これから本格化するであろう復興に、男女共同参画の視点を入れることを、私達の会は、設立の目的からして、声を大にして求めなければなりません。今回の山梨大会分科会のテーマを当初のものから変更し、「女性から始まる復興への道」としたのもそのためです。

震災で大きな犠牲が払われました。これから再建しようとする社会、変えていこうとする社会は、よりよい社会でなければなりません。私達は真剣にこの問題を考えて、山梨宣言として提言したいと思います。皆様の積極的な取り組みをお願いし、開会の言葉といたします。

≪ 山梨大会 分科会報告 ≫

第1分科会

**女性からはじまる復興への道
「災害と女性の就労」**

コーディネーター: 余語三枝子(アイリス東海クラブ)
 助言者: 棚田美津子(山形クラブ)
 記録: 河野、宮澤、千葉(山梨クラブ)
 参加人数: 37 名

【目的】災害により女性の就労形態がどのように変化していくのかを見つめ、また過去の災害時の事情も参照しながら、女性の就労の障害になっているのは何かを探ります。「女性からはじまる復興への道」を歩む女性たちが、年齢層に応じた各自の働き方を見つけ、将来の生活設計ができるような就労を支援していくために、第1分科会ではその方策を討議し、各関係機関へ提出できるような提言案を作成します。

【討議内容】

1. コーディネーターから、今回の東日本大震災の災害現状の把握と、働く女性がどのように立ち直っていくか、そして、BPW が支援できることは何か、韓国 BPW 他世界の方々からの支援金をどう生かしていくかを考える分科会とするため、雇用を中心として話し合いたいとスタートを切った。
2. 助言者から今回の大震災の現状と、阪神・淡路大震災、新潟・中越地震の被害数、震災後の経済状況についての説明。更に今回の震災被害 4 県の産業雇用状況並びに、今回の震災で起きた現時点の諸被害状況の報告があった。
 のどかな農漁村、日本の精密工業の製造拠点地、物流拠点地としての役割が大きくその影響は日本全国に至った。三世同居の割合が比較的高い地域で、今回の震災で就業していた企業はもちろん破壊、自宅が流出、田畑の機能を失ってしまった。そのような状況の中、女性・男性も就労にどう関係してくるのか、被害が進行形ではっきりした数字をつかむまで時間がかかるのではないかとの見通しが示された。
3. 阪神・淡路大震災、新潟中越地震時の、女性の就労・人権について和歌山クラブ会長小原智津さんから報告、労働保険に入っていないパート・アルバイトがほとんどだったこと、男性より女性の解雇者が多かったこと、

DV や強姦が多かったこと等の報告があった。

4. 災地仙台市の現状についての報告
 仙台クラブ佐藤わか子さんから、被災者の生活全般について、避難場所、災害直後の人々の行動、佐藤さんが行動したこと等生々しく痛ましい報告があり、本震災の大きさを再確認した。
5. 助言者から現時点での国の失業保険求職相談について、被災者の救済を全国からのハローワーク職員で対応していること、制度の改正、求人対策、求職相談、そして労災保険の受け付けはまだ先になることなどの説明があった。
6. 復興に向けて女性の就労をどう援助していくか。女性は子供の保育、親の介護、家庭管理、主婦として、精神的に大きな役割を果さなければならないので、精神的に健康な状態で就業できるような支援援助も必要である。また、男女を問わず無収入の状態を改善したい。その観点を中心に、現時点で考えられることを話し合った。
 - 国 各省庁、各市町村では臨時的雇用者を広範囲に採用してほしい。
 - 女性の就労が後回しにならないように。
 - 避難所にいるお年寄りが明るく過ごせるような働きかけをする。
 - 洗濯、食事の準備等を避難所内で行い、係った方たちに賃金を出す。
 - 義援金の一部をそういった女性への賃金として使用。
 - コーディネーターに女性を増やしてほしい
 - 就労する為には会社(企業再開)がないと出来ない、会社復興の支援・・・起業復興まで待つことも必要なのでは。
7. まとめ(提言案)
 - (1)女性の就労が後回しにされないように、復興・復旧のどの分野を担うか、また担当可能な職域を検討する。
 - (2)実現に向けてどのような働きかけをするか。
 - ・ 保育所・福祉避難所を場所にこだわらず、それらの機能の早期回復。
 - ・ 男女を問わず緊急雇用の職種の拡大をする。
 - ・ 毎日女性がやっている家事等の日常作業を賃金化する。
 - ・ 女性の起業のチャンスであるので、BPW の役割が今こそ必要である。
 - ・ 災害後の日々の記録をすることが女性の就労につながるのではないか。
 - ・ ボランティアの仕分けの作業を就労として賃金を渡しはどうか
 - ・ 仮設住宅の運営を仕事としてはどうか
 - ・ 復興・復旧関係の委員会等へ女性のリーダーを入れることと、女性運営委員のパーセンテージを決める。
 以上を次の提言にまとめた。

【提言】 今後の問題も含め、災害が来ても女性の就労を継続できるように

- ① 働く女性を守るため、どのような災害が来ても被害を受けない保育所をつくること及び保育所機能の早期の回復を図るシステムを作る。
- ② 障がい者・高齢者の情報を把握し、福祉避難所の早期設置できるよう要望する。
- ③ 災害時、女性は家事・介護等で家事労働を要求されるが、就労も守り、支援をする。
- ④ 災害の復興・復旧に関する委員会及び審議会委員として女性の登用を要請する。
- ⑤ 小さな雇用から大きな雇用を生み出す。

第2分科会

女性からはじまる復興への道 「災害と女性のリーダーシップ」

コーディネーター: 名取はにわ(東京クラブ)
 助言者: 土田アイ子(東京クラブ)
 佐藤わか子(仙台クラブ)
 記録: 坂本(山梨クラブ)
 参加人数: 26名

【目的】 昨年12月に閣議決定された「第3次男女共同参画基本計画」の重点項目に、「防災における男女共同参画の推進」が盛り込まれている。被災時や復興時に男女共同参画の視点で施策を進める上で、女性のリーダーシップは不可欠だが、政策決定の場に、なかなか女性の顔が見えない。災害から復興する際、どのように女性のリーダーシップを高めていけばよいかを考えてみたい。



【討議内容】

助言者: 佐藤わか子さんより

地震時、丁度市議会であったが、すぐに市内を巡り、夕刻から避難所を開設。千人規模の小学校に3千人の避難者。食糧備蓄は一日で終了。食料を求めて対策本部に駆け込んだが、ガソリンがなかった。

また、プライバシーを守りたいという女性の気持ちが無視された。ある避難所では、70過ぎの男性町内会長が全権を有し、女性達が更衣のため、段ボールの仕切りを要請しても、みんな家族なんだからと、許さず、結果、震災後一か月以上も仕切りが作られなかった。女子トイレの問題も大きかった。語り尽くせないほどの問題が生じている。

仮設住宅の設置にあたっては、女性議員として、バリアフリー住宅、集会所を依頼して作ってもらった。個別ケアもできるように NPO 法人も作ってもらった。

また、住宅借り上げのタイプの仮設住宅の場合は、孤

独死の可能性もあるので、パーソナルサポートで巡回してほしいことを市に要請した。しかし、市の職員は、プライバシー上、アンケートとり、希望者のみ訪問するとのこと。そこで、希望しない場合は、民生委員がフォローするよう要望し、実現。以上、女性議員であるからこそで、住民からは、男性議員には話せないとの声もある。女性議員であれば、暮らしに即した視点が出てくる。即断・即決は議員の役割、すぐに行動することが重要。そのためには女性をもっと議員として活躍することが必要。

政府の基本計画の「防災」中では、女性の支援について抽象的な表現になっているが、本当に実現していくためには、半分以上女性を入れるというように、具体的な数値が必要。

防災マニュアル内に、避難所運営等に必ず女性を一定の割合で組み込むこと、女性専用スペースの確保(相談・授乳・トイレ・更衣)を明記することが必要。そうしないと、何年たっても変化しない。

最後に、風評被害に振り回されずに、みちのくに来てほしい。

助言者:土田アイ子さんより

6期24年間江戸川区の議員経験の中での教訓は、備蓄は3日分必要。震災時には自助、公助、共助。東京では帰宅難民問題が発生したが、石原都知事の方針のもと、都営地下鉄は開放していた。また、新宿・中山区長、足立・近藤区長は女性で、震災後の対応の動きが速かった。今回のような想定外の震災では、マニュアルに沿って行動できない、現場の状況を知り、その状況に合わせてみんなで協力することが必要。議員に女性をもっと、もっと必要。また、原発については地方議員(男性議員が大多数)を巻き込んで開発してきた。

今回の復興にあたって、女性の視点を盛り込んでいくことが必要。

【討議内容】

- 災害時に行動するためにも、女性は高い専門性を持つ必要がある。災害は人災もある。危機管理について自覚を持って次世代に引き継いでいくことが必要。
- 女性議員、行政、各防災会議にもっと女性が必要。数値目標30%の早期達成を。仮に少数の女性リーダーであっても、あきらめず何度も主張し続けること。
- 避難所でも女性は炊事、救護担当。もっと方針決定を担当するよう防災マニュアルに数値目標を明記する。
- 防災マニュアルに福祉避難所の確保を明記する。
- 女性のネットワークが必要。

【提言】

- ① 被災地の運営メンバーに女性の30%をいれる
- ② 防災マニュアルに女性専用スペース、福祉避難所の確保など今回の災害から学んだ具体案をいれる。
- ③ 災害時の対応の好事例の紹介をして、共有してつな

いでいくためには女性のネットワークづくりが大切。

- ④ 女性としてのリーダーのポストにある人には、一つの「参考意見」として片づけられないように、自分で発言した意見には必ず目を通すこと。消されてもあきらめないこと!

第3分科会

女性からはじまる復興への道
「災害と女性の安全」

コーディネーター:松原敏美(和歌山クラブ)
助言者:遊佐美由紀(仙台クラブ)
記録:里吉、中村、滝田(山梨クラブ)
参加人数:30名

【目的】 災害時に発生する様々な問題を、女性の安全の視点から考えます。必要な物資の供給、医療へのアクセス、心のケア、ストレス緩和、プライバシーの保護、暴力からの保護、防犯のあり方、犯罪被害からの救済、コミュニティの温存あるいは形成等々、女性の安全の基盤をどう守るのかを考えましょう。

この分科会が、着実な復興の助けとなり、将来の街づくりや防災にも繋がることを期待します。

助言者:遊佐美由紀さんより

東日本大震災から三カ月現状と及び取り組みについて

① 3. 11 東日本大震災発生時の現状

仙台市青葉区北部地域では、ガソリンがない、灯油がない、食料がない、電気、ガス、水ライフラインも寸断され、

復旧までガスは一カ月後、電気 10 日水2週間かかった。避難所では、地元の中学校において炊き出し等325人の支援活動を行った。

余震が続き、水、食料がない、ライフラインも寸断、情報が全くない不安の日々が続く。

② 避難所、被災地の課題 (発生から1カ月～2カ月)

介護を要する福祉避難所、一人暮らしの高齢者等在宅への物資が必要となり、地域包括支援センターで物資を配布する。また避難所での女性のニーズに対応するため、着替えスペース等場間仕切り、トイレの男女別環境整備、女性の下着、生理用品、粉ミルク等の物資、また避難所運営に女性の代表を入れることなど県に求める。間仕切りは、企業から支援により設置。

③ 被災地の課題への女たちの取り組み(大震災から3ヶ月)

必要な物資を必要なところへ女性のネットワークへみやぎジョネットへ、東日本大震災子ども支援ネットワークみやぎが設立される。超党派女性議員&女性団体NPOとの協働による「おんなの語り場」イベントを企画7月24日に開催する。



【討議内容】

助言者からご自身の被災経験と被災地避難所の現状を冒頭 15 分伺い、その後論点を会場から上げて頂き、助言者とコーディネーターでまとめる形で進行了した。

- (1) 普段どおりの生活が、その時を境に全く違う世界になることを認識することから始めましょう。この時から居る（寝る）場所、食べ物、排泄できる場所という生きるための基本問題を突きつけられる。避難する場所は事前の広報どおり開けられているのか、水と食料は本格的な救援が来るまでの分が確保されているのか、排泄場所がなければ、水さえ飲めないことによる身体への悪影響は計り知れない。この3つの問題が、被災者に先ず明らかにされることが、初期のパニックを防ぐ基本である。
- (2) 避難所の不便さ不自由さをどれだけ軽減できるかは、その運営に生活者の視点が入るかどうかで大きく違う。女性の参画は複数必ず必要である。
- (3) 女性特有の問題（生理、妊娠、出産、授乳、着替えのプライバシー等）に対応できるスペースの確保は不可欠である。
- (4) 老人問題は女性の問題でもある。避難所に来られない老人の情報、緊急に医療が必要な人の情報は、

現場で動く人の司令塔になる機関や人（例えば地域包括支援センター、社会福祉協議会、自治会長）にすみやかに公開し、生命を守る活動に役立てるシステムの構築が必要である。

また避難所では、ひとりでは生活出来ない弱者のための福祉避難所を別に設ける必要がある。

- (5) 避難所、被災地域における性暴力から、女性や子どもを守るためには、女性警察官によるパトロールが有効であるが、そもそも女性警察官の絶対数が少なく（5.8%）、採用からの根本的な解決が必要である。
- (6) 大きな被災地支援の枠組も大事であるが、女性のネットワークを活用して、きめ細かな被災地支援が出来る環境を、県を超えて整備する必要がある。
- (7) 放射能に関する情報が乱れ飛び、何を信じてよいか分からない状況では困る。少なくとも、若い女性と子どものためのガイドラインを作成すべきである。
- (8) 経済的立ち直りが心の立ち直りにつながる。復興支援は生活者、消費者である女性の視点を生かした幅広いやり方で行うべきである。

【提言】

討議内容と同じ。

山梨宣言

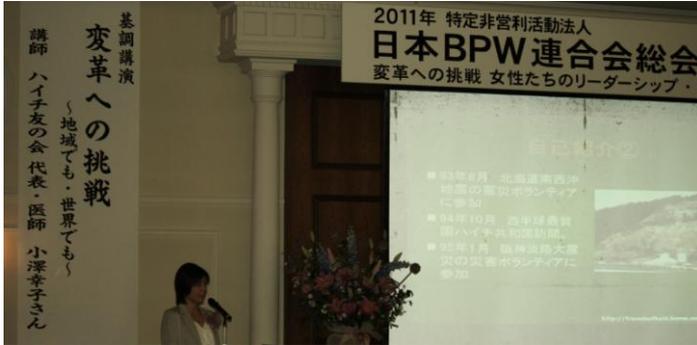
特定非営利活動法人日本 BPW 連合会

日本BPW連合会は、未曾有の災害をもたらした東日本大震災に鑑み、2011年6月5日の山梨大会において、「女性から始まる復興への道」をスローガンに被災地の代表を含めた議論のうえ、復興および今後の防災対策に女性の視点が活かされた策定の実現にむけ、次の提言を採択する。

1. 災害時における、女性の就労を支援するために、保育・介護施設の早期機能回復のための予算等の必要な措置をとること
2. すべての避難所に、女性専用のスペース（相談、着替え、授乳、トイレ等）を配置すること、加えて、介護を必要とする障がい者、高齢者の情報を適宜把握するとともに、福祉避難所を設置すること。
3. 災害に関する会議の委員および、避難所における管理者等の女性比率を30%以上にすること。
4. 女性の就労意欲の回復、経済的自立を支援するため、政府の緊急雇用対策の職種に災害復旧に関する原状回復や避難所の炊き出し等の日常作業を含め、男女を問わず有償で雇用すること。
5. 性暴力、DV被害に対処するには、女性警察官による避難所や被災地域への巡回が効果的である。そのために女性警察官の絶対的な不足を早期に解消する必要がある、2020年までに警察官に占める女性比率を30%以上にすること。
6. 女性の視点にたった、官民学のネットワークを構築すること。

基調講演要旨

「変革への挑戦～地域でも、世界でも～」
ハイチ友の会代表・医師 小澤由紀子氏



2010年1月12日の大震災で、首都が壊滅的な被害を受けた開発途上国のハイチの支援に関わって16年になるが、社会学を学んだ大学時代に北海道南西沖地震の時奥尻島に行ったことや、ルワンダへの緊急支援を志願したが実現できなかったことから、軍事政権からアメリカに逃れたハイチの人々の支援に行き、対等な関係で援助するという気持ちで友の会を立ち上げた。ハイチの国の状況は95%くらいが圧倒的な貧困層で言葉はクレオール語、子どもたちも水くみの仕事やストリートチルドレンになって残飯をあさったりしているような劣悪な環境。その中で仕事を提供することを考え、具体的にはハイチ絵画を絵はがきにして販売することにし、その収益で足踏みミシンを買って職業訓練校に配り、貧しい母親たちに勉強にきてもらった。また、子どもたちの学校を何とかしたいと里親支援を行い現在45名の子どもの就学を40数名の日本の里親たちが援助している。

大学時代に始めたハイチへの支援の中でハイチの医療状況の貧しさを知り、医学部進学を志し、1年間の浪人の後地元の医大に合格して夢中で勉強し、卒業後は長野県の佐久病院で地域医療の研修を受け、ハイチで紙芝居をするきっかけを学んだ。そうしているうちにハイチ大地震が起き、テレビで向こうの惨状を見て日本赤十字社のハイチ医療支援団に入れてもらい、いち早く現地の医療を助けた。その後けがや大きな傷は減ってきて、子どもたちの皮膚疾患や感染症、避難所生活に疲れ胃が痛い人などが増えてきて地域医療が世界でも通ずることを実感した。

ハイチは地震から1年たっても未だに80万人もの多くの人がテント生活で、1枚のマットレスに11人(子どもが2人で、あとは大人)が寝ている状況で、日本の復興支援を羨望のまなざしで見ている。また、農業国であるハイチの農業にも力を入れ、地域のNGOと協力して野菜の種を提供し、巡回用のバイクを買い、みんなで開墾して種をまき実りを迎えている。生活水が濁った池の水でしたがその村の古い井戸を直したり、地震によって壊れた灌漑用の水路の補修をみんなで取り組み、この5月にやっ

と完成したという便りが届いた。

今回「手を洗おう」という絵本を紹介するが、これは被災直後避難民キャンプでコレラが蔓延したためだ。紙芝居を作るとき募集した2つの話を収録し、日本語とクレオール語で併記されている。「手を洗おう」というのは被災後のハイチではとても重要と考え、訴え続けていたところ国際NGOのワールドビジョンという団体が目をつけてくれ「手を洗おう」の完全クレオール語版ブックレットを作ってくれたのでハイチに配布したが、この絵本は東北の被災地にも届けたいと思っている。

今、牧丘病院で地域の訪問診療をしているが、おしっこが管を使わないとでない患者さんの、その管をつるすかわいい袋を作ってお年寄りに喜ばれた。病院内に「お袋の会」を立ち上げ、ファッションショーなどもしたいと夢を膨らませている。モデルのお年寄りもおめかしをして写真を撮らせてくれたが、しゃんとしていて病気を感ぜさせないみたいだった。こんな風に何かちよつとして笑ってくれたらいいなというために一歩を踏み出す勇気を、ハイチの活動が与えてくれたと思う。

最後に福田恆存という学者の言葉の「理想とは現実が混乱しないための枠であり、物差しであります。」を紹介し、これからも地域でそれぞれの理想を持って現実を少しでもそれに近づけるための一歩を、お互いに続けて行きましようと思ふ。

**2011年BPWパートナーシップ・エヴァリュエーション賞
甲府市長 宮島雅展氏に贈呈**

2011年日本BPW連合会山梨大会のパートナーシップ・エヴァリュエーション賞は、甲府市長宮島雅展氏に贈られました。



地域の女性団体に対する活動支援、市の審議会等の委員や管理・監督職への女性の登用促進など、女性が社会参画しやすい環境づくりに取り組まれておられます。男性を対象にした料理教室の開催や父親の育児参加を促す啓発活動のほか、DV被害者等生活支援給付金給付事業など、男女共同参画社会実現に向けた諸施策を実践されています。



第8回ヤングスピーチコンテスト全国大会審査結果

山梨大会では、第8回ヤングスピーチコンテストが行われ、2010年度の各ブロック研究会で選出された5人のヤングスピーチコンテスト優勝者の中から、最優秀賞が決定しました。様々な分野で仕事を持つ若い女性が、それぞれ仕事への思い、夢を語ってくれました。日本BPWは、どんな場面でも気軽に自分の意見をわかりやすくスピーチできる、そんなこれからの女性を育てることをBPWの社会貢献のひとつと考え、このコンテストを継続しています。今年の実賞者は以下の方々です。

最優秀賞 興石多江さん(関東・山梨ブロック代表)
理事長賞 坂口舞子さん(西日本ブロック代表)
ヤングBPW賞 壽賀紘子さん(北海道・東北ブロック代表)
 平野明日香さん(中部ブロック代表)
 岡田裕加さん(近畿ブロック代表)
審査員 松原敏美理事長(審査員長)、各クラブ代表、
 山梨県 県民生活・男女参画課小松万知代課長

最優秀賞受賞した興石多江さんは動物園に勤める獣医さん。理事長賞受賞の坂口舞子さんは、金融機関退職後、海外での語学留学の体験を経て、地域の多文化共生の推進に活躍中。

ヤングBPW賞には、現実の厳しさに直面するロストジェネレーションの壽賀紘子さん、地域活動で子どもと関わる教育学部4年生の平野明日香さん、ピアノ、語り、マジック、ダンスを生かして幼児教育に携わる幼稚園教諭の岡田裕加さんが受賞されました。

最優秀賞受賞

興石多江さんのスピーチ(要約)



動物園の獣医さんになること、それが小学生のころからの私の夢でした。幼いころから通った地元の動物園の、たくさんの動物たちは、私にとっていつも身近な存在でした。

けれども動物園は狭き門で、卒業後国家試験に受かってもすぐに動物園に就職することはできませんでした。卒業して6年目に札幌市の動物園の臨時職員というチャンスを経て、その後埼玉県の動物園へ勤務することができました。そうして昨年の4月、私は念願の地元山梨の動物園で働くことになりました。楽しいことばかりではなく動物が死ぬことが最もつらいことですが、動物が寿命をまっとうできなかったときに、自分の無力さを思い知らされます。言葉をもたない動物たち、ましてや家庭でかわいがられている動物と違って、野生の本能を持つ動物園の動物たちは、死の間際まで決して弱みをみせてくれません。それでも動物たちの死はやってきます。動物園の動物が死ぬと、獣医師の最後の仕事として解剖を行います。解剖は動物自身からの遺言です。

そして今、原点となる動物園で働きながら、かつて子供だった私自身が、単純に動物を好きだと感じたように、動物園に来た人たちが、動物との出会いを楽しんでくれること、そしてそこにいる動物をみて、野生での姿を思い描くことができるよう、動物たち本来の能力や美しく健康な体を維持すること、それが獣医師としての私の生涯の目標です。(スピーチ内容全文は次回会報に掲載します)

2011年特定非営利活動法人日本BPW連合会総会

2011年6月5日(日)9:00~11:30

会員総数(定数)417名 出席者数 358名(委任状含む)

議長 里吉和子(山梨) 副議長 飯塚秀子(山梨)

書記 河野まさ子・滝田恵(山梨)

第1号議案 議事録署名人の選出

議事録署名人を議長の里吉和子、理事深沢公子、理事小原智津を全員一致で選出。

第2号議案 議題について全員一致で承認。

第3号議案 2010年度事業報告、全員一致で承認。

第4号議案 2010年度会計報告、ならびに第5号議案 2010年度監査報告について、全員一致で承認。

第6号議案 2011年度統一テーマ(案)・活動方針(案)ならびに第7号議案 事業計画(案)を一括して提案し、表決の結果全員一致で可決。

第8号議案 2011年度予算(案)、全員一致で可決。

第9号議案 役員を選任について、役員改選及び理事交代について全員一致で承認し確定した。

執行役員

理事長 松原敏美(和歌山)

副理事長 深沢公子(山梨)

副理事長 名取はにわ(東京)

副理事長 棚田美津子(山形)[新]

専務理事 高嶋洋子(和歌山)

会計 佐藤道子(東京)

企画委員長 土田アイ子(東京)

組織委員長 櫻井啓子(東京)[新]

広報委員長 柳下真知子(東京)

国際委員長 平松昌子(東京)

財務委員長 藤田ひろみ(福岡)

ヤングBPW委員長 宇佐美茉莉(東京)[新]

監事 森川幸江(岐阜)[新]

理事

札幌 濱田啓子

旭川 荒弘子

苫小牧 小山恵子

仙台 遊佐美由紀

山形 棚田美津子(副理事長)

米沢 成澤紀子

東京 村田美夏[新]

山梨 深沢公子(副理事長)

名古屋 波多野慧子

東海 若林昌子

アイズ東海 余語三枝子

岐阜 杉山史[新]

京都 志野久美子

大阪 河田英子

神戸 志方喜代美

和歌山 小原智津

香川 岡内須美子[新]

福岡 篠崎正美

北九州 花崎正子

長崎 鶴田雅子

お知らせ

男女共同参画推進連合協議会共催事業

シンポジウム「香川発！女性経済活動
～ネットワークづくりが

女性の経済活動を支援する～

日時: 2011年12月17日(土)

午後1時～4時

会場: かがり国際会議場 (高松市)

日本BPW連合会は、2010年9月、APEC 女性リーダーズ・ネットワーク(WLN)会合で、全体パネル・ディスカッション I 「女性たちによる経済活動 創造への挑戦」を担当、11月には仙台市で「女性と経済～地域を変える女性起業家たち～」と題して、食を中心とした農村女性の起業活動や地域活性化についてのシンポジウムを開催し、いずれも好評をいただきました。

今年は香川で、「ネットワークづくりが女性の経済活動を支援する」と題してシンポジウムを開催します。

2011年ブロック研究会の予定

西日本ブロック研究会(担当長崎クラブ)

- ・2011年11月6日(日)
- ・12:00-16:00
- ・長崎市立図書館多目的ホール
- ・基調講演: 名取はにわ
(日本 BPW 連合会副理事長)
「私が変わる 社会も変わる」(仮)
- ・パネルディスカッション
「ステキ ♡ 女子力！」

■ 近日、ホームページで紹介予定

- 7月23日 東日本被災地視察ツアー
- 7月24日 被災地の女性たちによるイベント
「女の語り場」

編集後記

山梨で連合会の全国大会・総会が開催されました。良く準備された素晴らしい大会でした。山梨クラブの皆様、大変ご苦勞様でございました。そして、有難うございました。大震災から3か月、大会では、復興支援活動の資金集めのための黄色のベストも良く売れました。ご協力ありがとうございました。

2011年JWLIフェロー4名が決定しました

JWLI フェローシップ・プログラムは、社会に変化をもたらすリーダーを目指す女性達を支援するプロジェクトです。この事業は、アメリカ・ボストン在住のフィランソピスト(慈善事業家)が、母国日本の女性達のために2007年に立ち上げたプログラムです。日本BPWでは、フィッシュ・ファミリー財団と、シモンズカレッジのからの支援を受け、2009年より、日本側のカウンターパートとしてJWLIプロジェクト(日本女性指導者育成事業)を立ち上げ、毎年フェローの募集にあたってまいりました。2011年こは、多数の問い合わせがあり、うち7名の方から応募をいただきました。厳選の結果、社会経験も豊かな4名の方々に決定し、今秋9月初めから1か月のボストンでの厳しい研修に向け、去る7月2日には、BPW連合会本部でのオリエンテーションも開かれました。これからの日本の将来に是非とも必要な女性のリーダーが、一人でも多く、本 JWLI フェローシップ・プログラムから育つことを願っています。

プログラムの詳細についてお知りになりたい方は、BPWのホームページをご覧ください。

<http://www.bpw-japan.jp/japanese/jwli.html>

★★2012年CSW インターン募集のお知らせ★★

詳細・申し込みは: <http://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html>

日本BPW連合会では、国際問題に関心を持つ大学生または30歳以下の女性を対象に、毎年3月、ニューヨークの国連本部で開催される、女性の地位委員会(CSW)に派遣するインターンを募集しています。

期間は短いながら、参加者からは、論文のデータ収集に役立った、就職に有利に働いた、国際的ネットワークづくりへのきっかけとなったなど好評を得ています。2011年インターン募集が第9回目となります。応募の詳細については、11頁および上記ホームページをご覧ください。また、これまでの参加者の声、報告もホームページ上で読むことが出来ます。



BPWインターナショナル第27回コンgres ヘルシンキ大会が開催されました

2011年6月17日—21日



日本BPWからは、代表・代表代理6名を含む26名が、フィンランドの首都ヘルシンキで行われたBPWインターナショナル第27回コンgresに参加しました。参加者は60か国からおおよそ600人。コンgresでは、懸念事項であった規約改正、決議案の審議がおこなわれ、会費の値上げが決定されました。また役員の変更も行われ、これまで会長を務めてきた、エリザベス・ベンナム氏に代わり、第2副会長フリーダ・ミクリス氏が会長に選出されました。話題盛りだくさんのコンgresについては、次号Web版ニュースターでご報告いたします。

■■■■ 復興支援にご協力を■■■■

<http://www.bpw-japan.jp/japanese/new.html#gienkin>

日本BPW連合会では、災害における女性の抱える様々なニーズにこたえ、新しい女性の役割、リーダーシップ支援の活動を、長期にわたり続けていく必要があることを自覚し、先の長い復興支援の活動を現地の方々と共に続けていくことにいたしました。

女性からはじまる復興への道



復興支援を掲げた BPW ベスト